

第69回日本酪農研究会 札幌市にて開催

営業統括室 嶋田 和睦

日本酪農青年研究連盟（酪青研：山本 隆委員長）主催の第69回日本酪農研究会・酪青研創立70周年記念大会が、11月14～16日の3日間、京王プラザホテル札幌にて、全国から約450名の参加者を集めて盛会に開催されました。

本研究会の開催目的は、日頃の経営成果と実践活動の発表に併せ、分析検討・知識技術の交流を通し、山積する諸問題の解決を図りながら、国際競争に勝ち残る我が国酪農産業の未来を切り拓き、発展に寄与することにあります。

主催者挨拶した山本委員長は「今回、北海道で開催される第69回日本酪農研究会は酪青研設立70周年の記念大会です。最初の一步は北海道の一隅でスタートした小さな実践研究活動でした。酪農の復興に燃える先達が設立した酪青研は、昭和23年北海道の各地から希望に燃える若き酪農家が札幌に集い「第一回酪農研究会」が開催され、それ以後、酪青研は多くの方々の共感を得ながら組織の輪を広げてまいりました。我が国の酪農にとって、この10年は激動の時代でした。そしてこれからの10年は更に大きな変化の時代となるでしょう。この70周年をひとつの節目として、今大会が設立の精神を語り継ぎ、さらなる連帯意識を高めていく大会となることを祈念いたします。」と挨拶しました。

雪印メグミルクグループを代表して挨拶した西尾代表取締役社長は「この度、日本酪農青年研究連盟が創立70周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。当社グループの創業者の一人である黒澤西蔵翁は、雪印メグミルクの源流の一つである「北海道製酪販売組合（酪連）」や、後に「酪農学園大学」となる「北海道酪農義塾」の創立者で「酪青研」結成においてもその大きな原動力となり、「日本酪農の父」と呼ばれます。黒澤西蔵翁は「健土健民」という信念のもとに幾多の困難に立ち向かい、日本の酪農の発展に尽力しました。そして、その思いを受け継ぎ、私た

ち「雪印メグミルク」と「酪青研」「酪農学園」の今日があります。すなわち、我々の根底には黒澤西蔵翁の思いがあるということです。どのような環境にあらうとも、黒澤西蔵翁の思いを受け継ぐ私たちのグループ企業理念のひとつである『酪農生産への貢献』の実現に全力を挙げ、国内生乳の価値を最大化するモノづくりを通じて、酪農乳業界の持続的な発展に貢献したいと考えています。」と挨拶しました。

研究会では、全国から選抜された酪農家6名による酪農経営発表と5名の意見メッセージ発表が行われ、経営発表の中から「足るを知り、経営に活かす」と題して発表した北海道協議会釧路地方連盟の原田敦さんが最優秀賞（黒澤賞）・農林水産大臣賞に輝きました。

今回の経営発表では、発表者全員が酪農2代目または3代目の後継者で就農後10～20年の経験があり、それまでの経営基盤や経営方針を踏襲しながら最新技術の導入や地域資源の活用など積極的に経営改善に取り組んでいる事例でした。その為、両親の高齢化を見据えて雇用労働力の導入や外部への作業委託を積極的に進めていることも特徴的でした。

また、酪農経営における課題や改善に向けた取り組みと成果について学ぶとともに、全国の参加者と集う貴重な情報交換の機会として大変有意義な大会となりました。

発表会後に行われた講演会では、「黒澤西蔵からのメッセージ『心田を耕せ』」と題して、学校法人酪農学園 学園長 仙北 富志和先生より、続いて『つながる酪農人への道』と題し、とわの森三愛高等学校 アグリクリエイイト科機能コースの生徒の皆さんよりご講演いただき、雪印メグミルクグループならびに酪青研、酪農学園の起源に思いを馳せる大変有意義な記念大会となりました。



・会場の様子



・山本委員長(左)と黒澤賞を受賞した原田さん(右)



・当社赤石社長より雪印種苗賞の授与



・酪農経営発表された6名の皆様



・意見事例発表された5名の皆様



・学校法人酪農学園 学園長 仙北先生の講演



・とわの森三愛高等学校の講演



・雪印種苗展示ブース